

訂 正

前号（2012年第18巻第2号）の郡宏先生の総説「振動と同期の数学的思考法」の図5および図6が誤って別の図になっておりましたので、下記のように訂正いたします。郡先生および読者の方々には大変申し訳ありません。なお、発刊直後に学会のウェブサイトで開催されているpdfファイルでは既に公開時に修正しております。

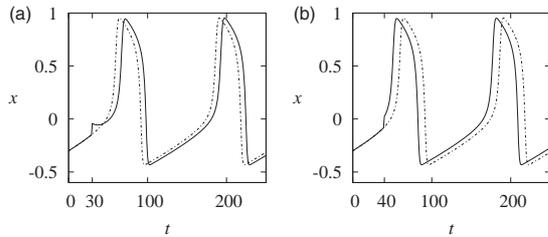


図5：瞬間的な入力を受けたFitzHugh・南雲モデルの時系列（実線）。点線は入力を受けていないもの。 $t=0$ が位相 $\psi=0$ に対応しており、刺激は $t=t_0$ で与えている。 t_0 によって最終的な位相の増減が違ってくる。 $\varepsilon=0.1$ 。(a) $t_0=30$ 。(b) $t_0=40$ 。

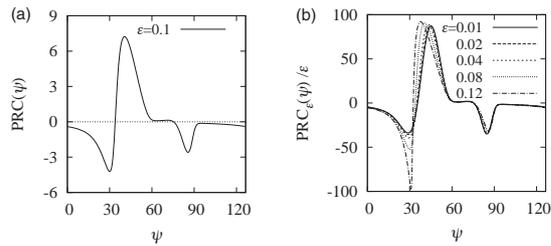


図6：FitzHugh・南雲モデルの位相反応曲線。(a) 刺激強度が $\varepsilon=0.1$ の場合。(b) 様々な刺激強度に対する位相反応曲線を刺激強度で割ったもの。